

巻 頭 言

校長 谷口 研二

3年前、入学式を終えた初々しい新入生と一緒に桜の下で記念写真を撮っていたことは昨日のように思い出します。緑豊かな矢田丘陵の山並みを背景に、頭上の青空に白い雲がくっきりと浮かんでいました。実は、私にとってあの入学式は、新入生と同様、とても大きな出来事でした。赴任したその日に祝辞を述べるのはとても緊張することで、この緊張感が当時の状況を鮮明な記憶として残しているのでしょう。しかし、こんなに鮮明に記憶される出来事は稀で、ほとんどの場合、すぐに忘却の彼方に消えてしまいます。ひどい場合には経験した出来事が、脳の中で、自分にとって都合良く再整理されて、それが真実として記憶に刻み込まれることもあります。

人の記憶は、時間が経つと曖昧になるので、記憶や情報を正確に伝える手段として「文字」が発明されました。文字が無かった先史（縄文、弥生）時代には先人の知恵は記憶を通して細々と伝承されていましたが、文字を持つエジプトや中国などに比べてその伝承量は圧倒的に劣っていました。この差を詰めるべく、奈良時代、国家事業として中国の文物がわが国に持ち込まれました。なかでも遣唐使が持ち帰った仏典は高僧だけが手にできる貴重な書物でした。この書物には中国やインドの長い歴史の中で育まれた知恵に溢れており、当時の知識人にとって学問の拠り所であったと思われます。その頃、お寺は、書物を保管する図書館、知識人を育てる教育機関としての機能を果たしていました。

さらに1000年ほど後の江戸時代末期、鎖国政策で世界の潮流に乗り遅れたわが国では、若者が命を賭して禁書を手にして、海外の知恵・知識を貪欲に取り入れようとしていました。こうして西欧の自由な思想に触発された若者が倒幕運動を起こし、明治維新を迎えることになったのは周知の通りです。いずれの例でも、先進的な情報を入手するため、人命を賭してまで情報収集に奔走した時代があったのです。

今では図書館や書店が全国津々浦々にあり、どこでも本が簡単に入手できる幸せな時代になりました。さらに、容易に情報にアクセスできるインターネットも普及してきましたが、厳選された質の高い情報は相変わらず書物から得られることが多いのも事実です。

皆さんは日本の歴史発祥の地に住み、そこで学んでいます。その絶好の機会に奈良の歴史をもっと知って欲しいと願っています。そのために必要な資料は図書館にあります。私自身、図書館にある書籍を借りて、通勤の間、読書三昧できる幸せを感じながら、奈良に縁のある本を次々と読みました。奈良には古代の地名が今なお数多く残っており、飛鳥時代や奈良時代に想いを馳せながら歩いていると、まるで自分がその時代を生きているように感じました。

もちろん、奈良以外の文化、政治、哲学、海外旅行などに関しても、図書館には皆さんの知的好奇心を満たす資料も十分に揃っています。

高専生活は、授業や課外活動だけではありません。先人の思想が詰め込まれた宝庫の図書館を有効に活用して、知性豊かな大人になってくれることを期待しています。